

公共事業再評価事業別調査

担当所属	農林水産部	林政課
再評価	未着工	長期継続 (農林水産省 5年)
実施要件	その他 ()	

1 事業の概要

事業種別	治山事業	事業主体	県	市町村	その他 ()		
事業名	水源森林総合整備事業	地区名等	中柏木地区				
事業区分	補助事業等 単独事業	負担区分	国 50% : 県 50% : 市町村 % : その他 %				
採択年度	9年度 (用地着手 年度、工事着手 9年度)						
終了予定	15年度 (年 月計画変更<計画時 15年度>)						
事業目的	当該地区の下流域は広大な水田地帯であり、水の供給は山裾にある大小の溜池に依存している。整備計画地の森林は、木材産業の低迷や世代交代による林業に関する関心が希薄になり、放置された森林の荒廃が進んでいる。このため、治山事業を導入し、森林の公益的機能 (水源かん養、土砂流出防備等) の維持増進及び水の安定的な供給や湧水対策を図る。対策工は森林の持つ公益的機能が高度に発揮される複層林による森林整備、森林の利水機能の発揚に資するための水土保全施設、森林整備及び水土保全施設の実施に必要な路網整備を行う。						
主要内容	森林整備 161.61ha 荒地・水土保全施設 (透水ダム3個、治山ダム4個) 路網整備 10,447.7m						
事業費	採択時総事業費 951百万円 単位:百万円						
	~11年	12年	13年	14年	小計	合計	
計画 (うち用地費) <年 月変更>	()	()	()	()	810	141	951
実績 (うち用地費)	235	141	254	141	771	180	951
その他	関係者から同意を得ている。(100%)						

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

AA・A・B・C

事業の進捗状況	単位: %		
		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	事業費割合 (うち用地費)	81%	95%
	工種毎割合 (主要工種)		
	森林整備	60	70
	荒地・水土保全施設	100	100
	路網整備	100	100
説明	事業の年次計画に対する進捗が順調であり、阻害要因もなく計画どおり実施できる。		
問題点・解決見込			
事業効果発現状況	実施箇所については効果が発揮されている。		

(2) 社会経済情勢の変化

AA・A・B・C

社会的	全国: 近年、少雨傾向等により各地で局所的な渇水が発生している。一方、林業生産活動の長期停滞等から、水資源のかん養、国土保全等の機能が低下した森林が増加しており、これら森林の機能の回復、向上が緊急の課題となっている。		
評価	県内: 林業はこれまで、県民生活の基礎的資材である木材を生産し、供給することで森林の整備を担ってきたが、採算性の悪化、世代交代等が進む中で経営が厳しさをましている。このため、必要な森林整備が行われず、水源かん養機能等の低下した荒地森林が増加するなど、公益的機能を確保することが課題となっている。		
	地域 (関係市町村、受益者等): 当該地域は、岩木川沿いに開けた広大な水田地帯であり、また、りんご園への水需要もあり、山すそにある大小のため池に依存してきた。今後の安定的な水の確保を図るため荒地森林の早期整備を要望されている。 保全対象の動向 人家250戸 (給水対象170戸)、学校1、ため池2箇所、用水路19、590m、道路39、900m、鉄道2、500m、水田245ha、畑32ha 着手時と比べて保全対象に変化はない。		
予算動向	国: H14/H9=72.3% 構造改革等による公共事業費の減少。 県: H14/H9=99.0%		
必要性等	計画時	再評価時	左の説明
必要性	特に必要	特に必要	水の安定的な供給や湧水対策のため必要。
重要性	非常に高い	非常に高い	土砂流出防止の向上や森林水環境の形成を図るため重要性は高い
緊急性	非常に高い	非常に高い	復旧整備の緊急性が高い。
効率性	良好	良好	
その他			

(3) 費用対効果分析の要因変化

AA・A・B・C

費用対効果分析		計 画 時	再 評 価 時	増 減
	費用 (C)	百万円	822百万円	百万円
	効果 (B)	百万円	1172百万円	百万円
	B / C		1.43	
変化内容	費用： 効果：			
B/Cへの影響	林野公共事業の費用対効果分析については、平成11年度より実施されているため比較できない。			

(4) コスト縮減・代替案立案の可能性

コスト縮減の可能性	現地発生材（木材）を活用し、コスト縮減に努めている。
代替案の可能性	

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

住民ニーズ把握状況	森林整備施行箇所においては水源かん養機能の向上が認められ、ダム等施行地については、下流ため池への土砂流入の軽減及び水質の浄化が図られており、地域住民等から早期完成を要望されている。
環境影響への配慮	森林整備によって生じた間伐材を丸太柵工に利用するとともに、郷土種であるヒバを植栽するなど、将来にわたって自然環境が維持できるよう配慮している。
地域特性	広葉樹の不良木の一部はシイタケの原木、炭焼き、燃料として利活用している。

3 対応方針（事業実施主体案）

総合評価	継続 見直し継続 中止 休止（農林水産省所管事業に限る）
評価理由	対象地域は、農業用水、生活用水等の後背小流域からの流入に依存している集落の上流水源山地であり、山地の崩壊、林層の悪化により森林の有する公益的機能が著しく低下しており、水資源の確保と山地の保全に資するため、早期に事業完成を図るため継続して実施する。
備考	

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針（案）どおり 対応方針（案）を修正すべき
委員会評価	継続 見直し継続 中止 休止（農林水産省所管事業に限る）
評価理由	
附帯意見	